

7月3日 ギター

中学時代の趣味といえば、深夜ラジオとFMのエアチェック。音楽は好きで、洋楽やニューミュージックにはまっていた。今やエアチェックもニューミュージックも「死語」であるが。

歌うことも好きだった。数少ない友達と下校する際、わざと遠回りをして藻川の堤防を歩き、皆で歌いながら帰った。「ギターが弾けたらいいな」「バンドを組んだらモテるかもね」そんな他愛のないことをいいながら、気の置けない友達と帰るのが好きだった。

夏休み、当時山梨に下宿していた兄貴のところ遊びに行った。部屋にはギターがあった。「〇〇持てば、スーパースターも夢じゃない」。アリスの commercials で一世を風靡したギターだった。兄貴は指の痛さに耐えきれず途中で諦めたらしい。私にしてくれるという。古ぼけたギターだったが、うれしかった。

ギターの教本を手に入れて、毎日練習した。Am や C のコードがよどみなく響いたとき、心が躍った。左の指先は真っ赤に腫れてジンジンしていたが、痛みより達成感の方が勝っていた。ところが、教本通り進むうちに、誰もがつかず F コードが登場した。まず指が形を覚えてくれない。そして、鈍い音しか鳴らない。1週間、2週間と教本が先に進まない。そして、とうとう諦めてしまった。「そもそも手の小さな私にギターは向いていない」と自分に言い聞かせた。

数ヶ月経ち、ギターはほこりまみれになっていた。雑巾できれいに磨き上げて久々に弾いてみた。でも F は鳴らない。また、諦めた。そんなことを何度か繰り返すうちに、「F のようなハイコードを押さえるにはコツがいる。少し上に押し上げるようにすると鳴るよ」とある人に教わった。教えの通り F を押さえて鳴らしてみると、確かに以前より和音らしく響いてくれた。それからまた特訓が続いた。

ギターを弾き始めて、かれこれ40年になる。全くの我流なのでうまくはないが、暇なときに今でも爪弾いている。演目は JPOP。昔でいう「ニューミュージック」だ。

